2022年09月28日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第5回（通算35回）

実践から見てきた学習者用デジタル教科書の効果的な活用法

川瀬 徹 氏（東京書籍株式会社 顧問）

1. 内容

- ・実践に見られる使い方
- ・東京書籍が採用している教科書 Viewer
- ・組み合わせて使うと効果的なツール

2. 所感

本日は、実際に使われている現場の様子を具体的に共有いただきました。紙の教科書では出来ないことのオンパレード。文字色や背景色を変更している様子、文字の拡大、国語であれば縦書き横書き転換、音声・朗読、教科書のページの一部を切り取り（コピーし）デジタルノートに貼り付けノートは無限に広がる、自宅のPCやスマホにID/PWを打ち込みマルチデバイスで活用している様子など。自分なりの使い方、学び方を確立しているとの言葉が印象に残りました。

また様々なツールと組み合わせて使う事例も紹介いただきました。ノート機能や音声認識機能を持つツールとの相性がよさそうでした。スピーキングのスコアが出るようなツールと組み合わせて、主体的に練習している様子を共有いただきました。ある先生は全国学力調査の点数が7点上がったと言います、先生は、教えることから伴走に変更しているとも。

質疑では、デジタル教科書を使う使わないの選択肢は、教師ではなく子どもにあるんだという言葉が胸に刺さりました。教科書採択による教科書変更の課題、中学校に上がってから小学校の教科書は使えない、検定の問題、教科書会社やViewer会社のUIの統一（標準化）なども質疑では話題に上がり、このあたりは、子ども達の学びなおしの観点、教科書に書き込んだメモの観点、生涯学習の観点から、デジタルの世界では当たり前になっているサブスクモデルといったもの含めて、子ども達、学習者にとってベストな展開を期待しました。

川瀬さん、具体例を沢山ご紹介いただきまして、誠にありがとうございました！

以上